



平成19年9月1日発行



香川大学医学部医学科同窓会

〒761-0793

香川県木田郡三木町池戸1750-1

TEL・FAX/087-840-2291

E-mail: dousou@med.kagawa-u.ac.jp

http://www.kms.ac.jp/~dousou/

選挙告示

選挙管理委員会

委員長 田井 祐爾

同窓会会長選挙

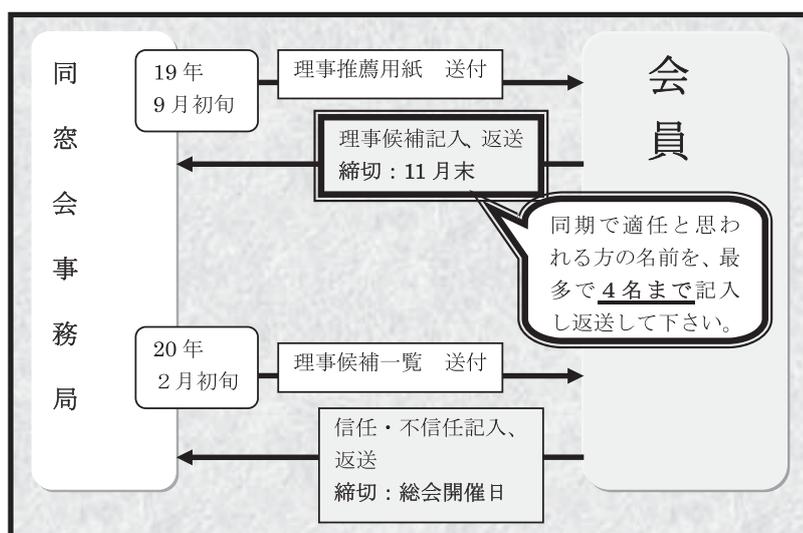
平成20年3月の任期満了に伴い同窓会会長の選挙告示を行います。同窓会会長選挙規定をご確認の上立候補される会員の方は平成19年12月20日までに事務局までご連絡下さい。但し、立候補者一人の場合は信任となります。

同窓会理事選挙

現在の理事は、平成20年3月に任期満了となりますので、会則9条及び会則25条にもとづき、選挙を施行します。つきましては、平成19年11月末までに各卒年同窓の推薦をお願いします。

◆理事選挙までの流れ◆

平成20年は、総会の開催年に当たります。会則に定められたとおり、理事の任期は2年で、20年3月で満了となり、後任の方を選出するために選挙を行います。理事選挙までの流れは以下の通りです。多くの方の立候補と全ての正会員の方に投票をお願いする次第です。



会則、同窓会選挙規定及び今期の理事名につきましては、讃樹會HPを参照ください。

<http://www.kms.ac.jp/~dousou/>

CONTENTS

| | |
|-----------------|----|
| 《会長選挙・理事選挙告示》 | 1 |
| 《巻頭言》 | 2 |
| 《同窓生教授就任挨拶》 | 3 |
| 《退官教授挨拶》 | 4 |
| 《新教授就任挨拶》 | 5 |
| 《追悼》 | 7 |
| 《関東支部会》 | |
| 支部会長就任挨拶 | |
| 第6回関東支部会開催のお知らせ | 8 |
| 《開催報告》 | |
| 卒後臨床研修説明会 | 9 |
| 西山成教授就任記念祝賀会 | 10 |
| 《特集》学生の国際交流助成制度 | 12 |
| 《学術研究助成／研究奨励金》 | 18 |
| 《国外留学助成金》 | 19 |
| 《医師賠償保険のご案内》 | 22 |
| 《理事会議事録》 | 23 |
| 18年度決算／19年度予算 | 24 |
| 《ニュースの窓》連合会総会 | 26 |
| 《事務局からのお知らせ》 | 37 |
| 《病棟だより》小児科 | 38 |



Yosemite National Park (California USA) / 村尾孝児(平成2年卒)撮影

巻頭言

同窓会会長代行

清元 秀泰 (昭和63年卒)



同窓会会員の皆さんに報告すべき事項がたくさんあります。

まず、残念な報告は消化器・神経内科の栗山教授のご逝去であります。栗山教授は本当に熱心な教授でした。私が夜中に帰る時、コンビニ弁当を抱えて研究室に戻る姿を何度もお見かけいたしました。研究や教育に熱心で、2年前、私が米国留学時代に同僚だったフィレンチェ大学肝臓内科のFabio Marra准教授が大阪で講演するために来日した際、香川に招聘したい旨をご相談したところ、「国際的な交流は医局員のためになる」と快諾していただき、面識のないFabioのために医科学談話会を主催していただきました。研修センター会議では隣席になることも多く、本学の研修医が少ないことに苦慮され、魅力的な研修を実現するための建設的なご意見にいつも敬服していました。7月23日、臨床講義棟におけるお別れ会には、先生のご冥福をお祈りするために座るところなき参列者が次々と弔問に来られ、皆が長尾病院長のお言葉に心打たれ、また清子夫人のご挨拶に涙を禁じませんでした。同窓会誌のインタビュー記事までも大切に保管していただいたことは同窓会関係者としては本当にありがたく、また我々同窓も栗山先生への期待が大きかった分だけ大きな悲しみに沈んでおります。残された旧第三内科医局員の方々は強い結束のもと栗山イズムを継承していただけるよう、更なる精進をご期待申し上げます。合掌。

さて、同窓が関心を寄せていた卒後臨床研修ですが、昨年はわずか10名と寂しい研修でしたが、本年度は35名の研修医をお迎えすることができました。これも、「病院全体が研修医を育てる」というコンセプトのもとに、石田センター長と長尾病院長が強力なタッグを組んで、研修医のために驚くべき迅速性を持って改革されたことが結実したものであります。

まず環境整備として、研修センターの改修や研修医医療末端の購入などハード面の充実は“痒いところに手が届く”配慮でありました。アメニティの改善では、学内へのスターバックスの誘致や24時間コンビニのオープンなど我々の要望はすぐに現実になり、当直でもひもじい思いをすることがなくなりました。更に今秋には、熱望しておりました院内託児所も建設に入り、来年からは女性医師の研修不安も払拭される予定です。研修が終了しても仕事との両立をどうするかと悩まれている皆さんは是非、香川大学を仕事場に選んでみてはいかがでしょうか。

これらハード面の充実に加え、人的なソフト面での取り組みも研修システムの充実につながっています。昨年からは長尾病院長はじめ石田研修センター長のご尽力で研修センター専任講師職が新設され、松原修司先生が就任されました。松原先生は、学生説明会を頻回に開催し附属病院の取り組みを丁寧に説明され、また、レジデント・コンシェル

ジュとして研修医一人ひとりと対話し、各人にあった研修プログラムの助言を積み重ねてきました。このような彼の人物と真摯な努力が研修医の心を掴んだと思います。同窓会も、松原先生の気概に感銘を受け、卒後臨床研修の重要性を鑑み、学生説明会や指導医講習会に対して資金援助を継続しています。勿論これらは、同窓会費によってまかなわれており、皆様の会費が次世代を育成しているといっても過言ではありません。

加えて、同窓会では研修医が医療事故に巻き込まれた際の医療事故賠償保険制度の団体加入も事業化しております。現状であと数十人がご加入いただけると、年額5,000円程度の割引があります。私も、今までの循環器学会から加入していた保険を同窓会保険に切り替えました。同窓会員であればいつからでも加入できますので、医師会や所属学会に属さない研修医が全国どこに行っても安全に研修するためにも、どうか同窓会医師保険へのご協力をお願い申し上げます。

同窓会が熱望する本学の発展には愛校精神に溢れた優秀な人材の育成が不可欠であり、本会事業である在校生留学支援プログラムや卒業生への留学支援、研究助成はその一翼を担うものです。本学で活躍中の先生方も、他大学や研究機関に勤務されている方も、同窓であれば申請することは可能です。薬理学講座の新しい教授に選出されました西山教授も同窓会からの留学助成を受けられています。研究助成においては、厳正な審査を期すために、本学とは関係のない外部評価者が採点し、理事会の承認にて交付されます。これらの同窓会基金を有効に利用して、次なるステップに飛翔していただくことが同窓会の設立目標の一つであります。今回、選出された先生方の更なるご発展を期待しております。

本年度から始まりました在学生に対する留学支援プログラムへの取り組みにつきましては、本誌において在校生たちが熱い留学体験記を寄稿してくれました。この支援が将来どれほどのインパクトをもたらすかは判りませんが、少なくとも徳田教授が20年近く地道に取り組んでこられたカルガリ大学への学生留学や、一昨年から始まったブルネイ・ダルサラム大学への交換留学は、医学のみならず人間的視野を広げる貴重な経験をもたらすものであり、同窓会のサポートが国際的な視野を持つ医師養成の一助となれば幸いです。

最後に、波多江先生がご退官されました。私は波多江先生の緻密で繊細な板書を用いた講義が大好きで、医学のすばらしさを実感できる授業でした。今も波多江先生の講義ノートを見て当時を懐かしく思い出します。波多江先生に通じるとく繊細な一期生の菅原先輩が自治医科大学の教授に就任されたことを、全会員に周知できることは望外の幸せであります。多芸多趣味な菅原先生はトライアルバイクが好きで、私も林道ツーリングにもよく誘っていただきました。サックスはプロ級で、学生時代にNHKのジャズ番組にも出演されていました。波多江先生のご退官に際して、菅原先生の就任のお祝いを述べるのも少し変な感じはしますが、特に若い同窓の皆様におかれましては何にでもチャレンジする先達を手本に、本学の更なる発展に寄与していただけますようお願い申し上げます。

同窓生教授就任挨拶

教授就任にあたって

好きなことをしよう

自治医科大学 形成外科

教授 菅原 康志 (昭和61年卒)



この度、さまざまなご縁と多くの方のご支援と、運のお陰で、教授職を拝命することとなりました。もしかしたら同窓のみなさまにも、なにかお役に立てることがあるかもしれないと思い、筆を執りました。

私は1986年に卒業した一期生です。今思うと、勉学に不真面目な学生だったことが、この道に進んだ大きなきっかけであったと思います。医学生時代の勉強量が影響しない世界、つまり技術の分野でやっていこうと決めたのは、6年生の春頃でした。わずか2日間のポリクリの最中になにやら”ピクン”と来たようで、これからは形成外科じゃ！とひとりで盛り上がっていたのを覚えています。図書館に行き教科書や学会誌を繰ったところ、どれも絵や写真が文章よりも多く、ますます“オレ向けだあ”ということになったのです。

そんな案配で、男だったら一度は東京で勝負せねば、などという気負いと、東京ならジャズのライブにすぐ行けるというよこしまな気持ちで、東京大学形成外科に入局し医師生活がスタートしました。

東大の医局には、いわゆる“鉄門”と呼ばれる東大医学部を卒業した超人がたくさんいました。賢いふりをして到底かないませんから、勝てそうなことだけを一生懸命するようにしました。根気、努力、肉体労働です。学生時代と違い、実際のところ労働という環境にはこういった姿勢がピッタリで、ずいぶん仕事と経験を頂くことができました。

麻酔や救急の研修を2年行い、念願の形成外科のトレーニングが始まりました。

どんな手術も無駄にしないように、ひたすらオペ・シミュレーションと詳細なオペ・レコードの蓄積に励みました。同級生が見ていたら、あ・の・す・が・わ・ら・が・・・・という感じだったかもしれません。そうこうするうちに、イヤだった英語の論文も、やりたい手術がもっと理解できるのなら、ぜんぜん！という感じになって、辛くなくなりました。これって誰もやってないし詳しく調べてない、ということもわかってきて、学会発表や論文もちょこちょこするようになったのです。まったく喋れなかった英語も、台湾の3ヵ月とスウェーデンの1年で、言いたいことはだいたい言えるようになりました。

そうして、留学を含めて10年ほど東大で仕事をしていましたが、次第に閉塞感にとらわれつつありました。大きな組織での医療サービスの質に、違和感を憶え始めたからで

す。そんな1998年、自治医大のポストがあるが行くかい？とボスに言われて、二つ返事でハイ、と答え、2ヵ月後に講師として赴任しました。当時は外科の医局に所属して私を含め3名のスタッフで仕事をしていました。小さな所帯でしたが、好きなようにできるのがとても嬉しかったのをよく憶えています。それからは、診療、研究、ちょっとだけ教育、執筆、集金、政治的立ち居振る舞い、企業提携による機器開発、経済・経営学習と、ただひたすら好きな勉強と活動を行いました。おもしろいネタが、あちこちにあるのがあっていました。良い仕事をする、とどんどんとまた面白い仕事や人が集まってきました。そんなふうにして今までやってきたようです。

さて教授職も、今やかつての様うまみもなく、ましていろいろ面倒なことも多いポジションかもしれません。ただ、少なくとも私にとっては、退屈な生活とはほど遠い、刺激に満ちたよい居場所です。それは、まず若い人材が集まってくれることです。新しいアイデアや考え方が引き出されるのは、若い人と話している時です。40代も後半ではそうそうひらめきがあるわけではありません。お陰で、いつも頭がぐるぐる廻って楽しいものです。そして大学という比較的オープンで自由な組織に所属していることも魅力です。研究費を集め若者に研究をやってもらい、良い結果にすごいすごいと感嘆し、手術の依頼があれば北海道から関西まで飛んで行って、心地よい緊張の中で楽しくこなし、そのスタッフとお友達になる、医学部図書館でなんとも言えない静かな午後の時間を過ごす、などなど、じつに贅沢に時間を使えるなあというのが、本音です。

医師にはいろいろなキャリアパスがあると思いますし、これからその多様性は広がってゆくでしょう。私は、あまり細かいことは考えず、ただ好きなことをその時点で最大限の努力をはい行ってきました。無駄な努力もたくさんしたと思いますが、なにが無駄だったか、そんなことは死ぬ前になってみないとわかりません。いずれにしても、人生はありきたりな退屈なものになりがちです。ですからそうならないように努力した方が得です。好きなことを早く見つけて、それをできるだけ続けることです。そうすることで、愉快で豊かな人生を送ることができるのではないのでしょうか。

私は、今後もそうした生活を続けられるよう、努力してゆくつもりです。

略歴

1986年香川医科大学卒業、東京大学形成外科入局。1992年長庚(チャンゲン)記念医院(台湾)、1996年東京大学形成外科助手。1997-98年ヨーテボリ大学(スウェーデン)。1998年自治医科大学講師、2001年自治医科大学助教授、2007年自治医科大学教授。杏林大学医学部非常勤講師。医学博士、形成外科専門医。日本形成外科学会評議員、日本頭蓋顎顔面外科学会評議員、アジア太平洋頭蓋顎顔面外科学会評議員

退官教授挨拶

仰ぎ見て遙か、顧みて一瞬

香川大学名誉教授 波多江種宣

私は、平成19年、定年により、26年間勤めたこの大学を退職します。過去に私の講義を聞き、現在、医師として日本全国ではたらいている、約2500人の卒業生の皆さんに、ここからの挨拶の言葉をおくります。私は、旧香川医科大学設立当時から在職している教授としては、最後の一人になります。これは、歴史的に、医学部が次の段階に入ったということを意味します。そういう点で、今年、私の退職と同時に、卒業生の中から教授がでたということは、なにかの因縁を感じます。

私は、昭和56年、旧香川医科大学解剖学講座教授として、九州から赴任しました。前年に数人の教授が発令になっており、私はその第2陣でした。私は2年半のフランス留学から帰ってきたばかりで、当時、39歳でした。四国は未知の土地で、瀬戸大橋はまだ開通しておらず、期待と不安をいだきながら、宇高連絡船に乗りました。当時の香川医科大学は、一般教育棟、体育館、図書館および基礎臨床研究棟が完成していました。いま管理棟と附属病院のある場所は、当時はまったくの更地で、野良犬がかけまわっていたことをおぼえています。

解剖学の授業に解剖実習がありますが、赴任して最初の年はご遺体が集まらず、島田教授とともに、たいへんな苦労をしました。県の広報誌をつうじて献体の呼びかけをしましたが、それでも、最初の年は学生8人につき1体でしか、実習ができませんでした。しかし、その年の実習は最初の解剖実習ということもあって、ずいぶん熱気ある雰囲気で行われました。また、赴任の年に、組織学実習用の顕微鏡標本を約12000枚作りました。これは一枚一枚手作りで作ったので、いまでもほとんど褪色しておらず、もう30年ぐらいは使用に耐えると思います。

私の専門は組織学で、電子顕微鏡で細胞の微細構造を研究しました。研究者にとって望ましいのは、整備された研究機器と快適な研究環境が与えられることです。そのことに関しては、40代のいちばん体力と気力が充実しているときに、教授としてこの大学によんでもらい、当時としては最新の電子顕微鏡を使わせてもらったことに感謝しています。赴任して3年目に、ある構造を発見して、国際電子顕微鏡学会で優秀発表賞

に選ばれたことがあります。その構造が、最近、学生むけの組織学の教科書に記載されるようになりました。これは望外のよこびで、香川医科大学に感謝している理由のひとつです。

私は、この26年間、講義を一回も休講にしませんでした。これは学生にとって迷惑だったかもしれませんが、最後の数年は完全試合を意識して、風邪で発熱していても講義にでかけ、膝をわるくしたときは車椅子で講義にでかけました。また、赴任した年から大学の出来事を日録風に毎日つけました。これは、はじめは意識していませんでしたが、同僚の教授たちが定年で私のまわりから次々といなくなり、また、7年前に香川医科大学20周年記念誌の編集にたずさわったときから、貴重な記録になるかもしれないと思うようになりました。いまはない香川医科大学設立当時の記録として、近い将来、まとめておきたいと思っています。

「仰ぎ見て遙か、顧みて一瞬」という言葉があります。赴任当時、定年までの26年は、遙か彼方のようにみえましたが、いざその年を迎えると、文字通り、一瞬の出来事のような気がします。ご承知のように、ここ数年、医療をとりまく環境に大きな構造変化がおきています。医学部の役割は質のよい医師を養成することですが、それと同時に、地域医療の基幹的役割を果たす使命を担わされています。これは、今後ますます増大すると思います。

わたしは10年ほど前から、土地の人に絵（水彩画）を指導しています。私の指導をよろこんでくださる方々もいますので、美しい自然に恵まれた讃岐の地で、絵を描きながら残りの人生をおくりたいと思っています。

長い間、ありがとうございました。



新教授就任挨拶

これからの形態学研究

形態機能医学講座
組織細胞生物学
教授 荒木 伸一



この度、波多江種宣前教授の後任として、組織細胞生物学を担当させていただくことになりました。地方大学、医学部を取り巻く環境がますます厳しさを増す状況で、2代目教授としてバトンを渡され、責務の重さに身の引き締まる思いであります。私が、この香川医科大学へ第二解剖学の助教授として赴任し、はや10年が経とうとしています。その間、大学法人化、香川大学との統合という大きな波にもまれながらも、前教授と共に解剖学教育と形態学研究の発展に努めて参りました。まだまだ十分とはいえませんが、これまでの本学における教育・研究活動への取り組みを評価していただき、教授として選任して頂けたことはこの上ない喜びであります。

私は、この十年来、本学においてマクロパイノサイトーシス、ファゴサイトーシスという細胞外からの液相および固体異物の取り込み様式を形態学的に解析してきました。この細胞現象は、細胞の普遍的機能としても重要であり、また、自然免疫、獲得免疫や微生物の感染経路としても利用されるため、その分子メカニズムの解明は、近年特に注目されています。これからもこのテーマを中心に研究を継続、発展させていくつもりですが、さらに、細胞内情報伝達や機能分子の時空間情報を、顕微鏡を通じて得ることから様々な細胞の機能、働きを分子レベルで解明したいと考えております。

現在、私が主力としている方法論は、本学に赴任してくる少し前にハーバード大学ではじめたバイオイメージングという形態学の技術です。これは、普通の形態観察だけでは見えないシグナル伝達のような現象を、分子生物学を応用して生きた細胞内で可視化し定量解析することです。特定の遺伝子や個々の生体分子が細胞や組織の中で、いつ、どの様に分布し、機能しているのかをシステマティックな生命現象として解析するイメージング技術は、機能ゲノム科学の細胞～生体レベルでの解析の中核をなすストラテジーであり、今後ますます需要が高まると思われます。しかし、経験の無いものにとってこのような形態学的技術は、装置の操作や画像を読むことへのなじみの薄さという障壁があり、一人では簡単に着手しにくいものでしょう。卒業生の皆様、これから形態学的な研究を始めたいと思っている方、既に研究を行っている方でこれから少

し形態学を取り入れてみたいと思われる方、是非、組織細胞生物学研究室をお訪ね下さい。同窓生の皆様や香川大学医学部全体の研究の発展に寄与できることを心から願っております。

現代社会では大学での研究も実用化、イノベーション創出につながる成果を期待するようになってきました。基礎研究から応用研究・実用化へと発展させていくためには、他の基礎医学および臨床医学分野の研究者とも連携を深め、お互いの研究を学際的に展開していくことも重要でしょう。しかしまた、たとえ直ぐ社会に還元できる研究でなくとも、サイエンスの世界で真の価値を見出せる研究に誇りをもって取り組んでゆきたいと望んでおります。世界高水準の研究成果を継続的にプロデュースすること、これが基礎医学研究者としての私の願い、本心です。

今後とも、皆様の力強い御支援と御協力を心よりお願い申し上げます。教授就任の御挨拶とさせていただきます。

香川大学医学部 形成外科講座のこれから

外科学講座形成外科学
教授 田中 嘉雄



香川大学医学部形成外科学講座に赴任して2ヶ月が経過しました。本学における形成外科は昭和58年に設立され、平成5年に秦維郎教授のもとで講座となり、中四国の国立大学では最も古い伝統を有しています。この伝統ある講座を担当させていただきますことは誠に光栄と存じています。形成外科の扱う領域は広く、そのなかでも私はマイクロサージャリー（microsurgery）と頭蓋顎顔面外科（cranio-maxillofacial surgery）を専門としています。今後の運営方針としまして、臨床面では一般的な形成外科手術はもちろんのこと、マイクロサージャリーと頭蓋顎顔面外科の専門性を生かして①切断指再接合②頭頸部悪性腫瘍切除後の再建③乳癌術後の乳房再建④リンパ浮腫の治療⑤陈旧性顔面神経麻痺の静的・動的再建⑥糖尿病性足病変・難治性潰瘍の治療⑦頭部顔面外傷の治療などに力を入れて行きたいと考えています。この中でも糖尿病性足病変・難治性潰瘍の治療は各診療科が単科で行うには限界があります。そこで「フットケア・創傷治療外来」を形成外来に設置し、糖尿病内科、心臓

血管外科、循環器科、放射線科、整形外科、皮膚科と連携して集約的治療を行うことに致しました。頭部顔面外傷では、救急科・脳神経外科・整形外科・耳鼻科・眼科とチーム医療を行い、香川県における基幹病院としての役割を担ってまいります。さてこれまで香川大学形成外科では唇裂・口蓋裂をその主たる診療とされていたことは存じています。唇裂・口蓋裂の診療では、一人の患者に対して専門形成外科医・矯正歯科医・言語療法士の10年-20年におよぶ一連のチーム医療が必要です。この理想的なチーム医療を推進する目的で、本年度7月から唇裂・口蓋裂専門外来を形成外科外来に新設し矯正歯科医・言語療法士の協力のもとにチーム医療が行える体制を整えました。この体制のもとに少しずつ患者さんの信頼を獲得し、将来的には香川県だけでなく四国全体の患者さんを一手に担う口唇裂・口蓋裂センターに発展することを期待しています。美容外科に関しましては、大学病院でこの部門を扱うことは時代の要請であると思えますし、すでに他の国立大学や私立大学においても美容外科の開設が続いています。香川大学でもすでにこの部門は形成外科に併設されていましたが積極的な運営は行われてこなかったようです。今後この部門の需要は飛躍的に伸びるものと思われますので、大学病院の美容外科として信頼性のある美容医療の提供に尽力してまいります。研究面では、私の研究テーマであります再生医療(Tissue engineering flap: 独自の栄養血管を有する組織の再生)を中心に国内・国外の各研究施設(Bernard O' Brien Institute of Microsurgery, Melbourneなど)との共同研究を幅広く進めてまいります。私に果された役目は、これらの臨床・研究体制を充実させて医員に楽しく働き、学べる環境を与え、次世代を担う人材を育成することと考えています。このためには国内外の先端医療施設での臨床研修制度も積極的に導入していくつもりです。最後に、教室はまだ未熟ですが、少しずつ実績を積み重ね、他科・地域医療機関とのチーム医療に積極的に取り組みながら患者さまのQOLを尊重した最善の医療技術の提供を行い、香川大学の発展に寄与してゆきたいと考えています。同窓会讃樹会の先生方には、ご指導、ご支援を賜りますことを心よりお願い申し上げます。

教授就任にあたって

外科学講座脳神経外科学
教授 田宮 隆



「讃樹会」会員の皆様におかれましては、ますます

ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、平成19年7月1日付けで、香川大学医学部脳神経外科学教室を担当させて頂くことになりましたので、一言ご挨拶を申し上げます。

私は、昭和56年に岡山大学医学部を卒業し、岡山大学脳神経外科学教室に入局致しました。その後、神戸市立西市民病院での臨床研修を行った後、岡山大学で脳腫瘍の基礎研究を行いました。その後、脳神経外科専門医を取得後、昭和62年から尾道市民病院、平成2年から岡山市市民病院での救急疾患を中心とした脳神経外科診療を経験した後、平成3年から平成15年3月まで岡山大学脳神経外科で臨床と研究を行って参りました。途中、平成4年より1年6ヶ月間、米国マサチューセッツ総合病院脳神経外科、分子遺伝子学部門で脳腫瘍の遺伝子治療の基礎研究を行って参りました。そして、平成15年4月から、香川医科大学脳神経外科(現香川大学)に異動し、現在に至っております。

香川大学医学部脳神経外科は、長尾省吾前教授(現、病院長)のもとで充実した診療、研究、教育を行っており、また当科のスタッフは私以外はすべて香川医科大学出身者であり、今後さらに発展させていきたいと考えております。

臨床において当科では「患者さま中心の良質かつ最新の低侵襲な脳・脊髄・末梢神経の治療」のキャッチフレーズで、脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、機能的脳神経外科疾患、脊髄・脊椎外科、小児奇形など脳神経外科領域で扱う幅広い診療を当科のスタッフと他科とも連携して発展させていく所存です。

研究におきましては、基礎的研究を行ことは科学的思考力や洞察力を養う上で臨床医にとっても非常に有用な経験になると考えております。悪性脳腫瘍に対する遺伝子治療の研究、脳腫瘍細胞の薬剤耐性遺伝子の研究、PETによる脳腫瘍や脳血管障害に対する最新診断、脳血管障害や頭部外傷における脳浮腫の研究などを基礎講座と協力して充実させたいと思っております。

教育におきましては、専門性の高い知識と堅実な医療技術の習得に加え、現在の国際化・情報化社会に対応でき、人としての優れた倫理観を持つ優秀な医療人を育成したいと考えています。私自身、学生時代は硬式庭球部に属し課外活動を積極的に行いその重要性を認識しており、今後も学生と積極的に交流し香川大学に愛着を持つ卒業生を多く育てたいと考えています。

全国的に外科系の手術に対する裁判などの増加と脳神経外科医の減少が話題にのぼっております。この苦境の中当科のスタッフと共に協力して、優秀な若い脳神経外科医を一人でも多く育成し、香川大学医学部・医学部附属病院の益々の発展に貢献したいと考えています。

今後とも「讃樹会」会員の皆様の一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

追 悼

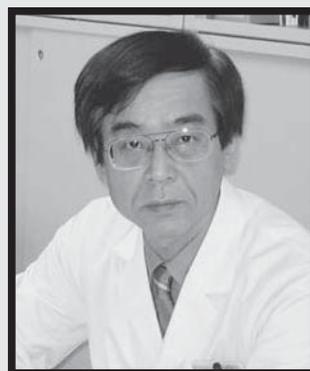
栗山茂樹先生の思い出

私が栗山先生を知ったのは、約6年前、当時の香川医科大学第3内科に教授として奈良県立医科大学より赴任された時です。先生の医学者としての能力はすでに高く評価されており、他大学の教授より‘今度香川に若い肝臓がん治療の最先端を走っている先生が教授として行ったようだけど香川も思い切って良い人材を獲得したな’と言われた事を思い出しています。

肝臓がんの遺伝子治療をテーマとして研究を進められていましたが、先生は研究と同時に学生および研修医・教室の医師の教育に力を注がれ、その上診療においても卓越した能力と温かい人間性から多くの患者さまからも慕われる頼りがいのある臨床医でした。このように三拍子揃った教授は少なく、今後医学部・病院の宝として大きく育ててほしいと期待していました。先生の誠実なお人柄は周囲の者を惹きつけ多くの若い有能な医師が先生の門下生として集まっていることから窺えます。またこうと思ったら信念を曲げない強い一面もあり病院の会議などにおいても何度か先生の発言に感銘を受けまた病院長として感謝したこともありました。

最近では内視鏡診療に特に力を入れられ、内視鏡診療室の新設や内視鏡機器の購入に随分プレッシャーをかけられたものです。やっと新しい内視鏡室が完成し内視鏡診療部長に指名させていただいたにもかかわらず、ついに新しい先生の職場を見ずに逝かれたことは残念の極みです。

私は先生の病室に2、3度しかお伺いしていませんが、これはお伺いするたびに病院に迷惑をかけて申し訳ないと大変なお心遣いをいただき、また病魔と闘っている先生のお姿を拝見するのが同僚として辛くつい足が遠のくことになってしまいました。病床のつれづれにと草花の写真集をお贈りしました。手術2日前に先生らしい端正な字でお手紙をいただきその中で、‘写真集をありがとうございました。心をなごませていただきました。「野の花との出会いは一期一会です」「神さまに恵みを感謝して咲いている」など、以前であれば、余り何も感じなかった文章に意味を感じます。(中略)元気に復帰しまして、御世話になった香川大学の皆様方に是非恩返しができますように、頑張っていきます’と書かれていました。このお手紙を頂いて栗山先生はやっと日常の超多忙な生活から開放され自分の心や周囲の状況に目を向ける



ゆとりが出来たのだと思いましたが、彼にとってはあまりにも辛くそして苦しいゆとりの時間だったでしょう。そして先生の診療科長としての責任感の強さにわが身が引き締まる思いをいたしました。

後日奥様から病床日記の一部をコピーでいただきましたが、言葉の端々に早く元気になって病院で働きたいという言葉があり、その希望が叶わなかった栗山先生の無念と心残りを想う時、申し述べる言葉もありません。栗山先生は病院の良心でした。彼を失った心の空白は大きくいまだに埋められません。病院一丸となって消化器神経内科の先生方を支援し、後継者を育成するのが私たちに与えられた使命と考えております。栗山先生の低音の説得力ある声が今も耳に残り、将来病院の中心となるべき人材を急に失いその喪失感に耐えながら日々病院運営にたずさわっているのが現状です。最後に言いたい、栗山先生順序が違うよ。幽境を異にした今となっては、ただただ先生のご冥福を祈るのみです。

合掌

香川大学医学部附属病院長 長尾省吾

.....



お別れ会が、7月23日(月)に医学部臨床講義棟2階講義室において、医学部附属病院及び消化器・神経内科同門会の共同で執り行われました。

関東支部会

支部会長就任挨拶



江藤 誠司
(昭和61年卒)

このたび、関東支部の2代目幹事を担当することになりました、江藤と申します。初代幹事は東京医科大学人体構造学(旧第一解剖学)教授、伊藤先生でした。一介の開業医である私ではたぶん、役不足だとは思いますが、伊藤先生の築き上げた関東支部同窓会の更なる発展のため、全力で頑張っていく所存であります。今回、この誌面を借りて、ご挨拶をかねた近況報告とともに、抱負を述べさせていただきます。

私は、昭和61年に一期生として、香川医科大学(当時)を卒業し、平成15年、新宿に「えとう内科クリニック」を開業、現在に至っております。忙しい診療の中、一人でやっていくことの不安に常に怯えております。一方で、都内大学医学部を卒業した先生方は、その同窓会ネットワークを利用して、常に、互いに、密に、情報交換をしており、横目でいつもうらやましく思っておりました。

そこで、私の抱負(実現可能な夢)としては、関東

支部同窓会会員にとって有益な「関東支部ネットワーク(仮称)」を構築することにあります。

関東支部会(東京都、茨城県、群馬県、埼玉県、山梨県、神奈川県、静岡県、千葉県、栃木県)の会員数は、現在の時点で、375名です。四国支部会の490名、関西支部会の420名に次ぐ、3番目に多い会員数を擁しております。今後、この会員数が増えて行くことは間違いなく、各個人の頑張りを「関東支部ネットワーク」を利用して、有機的に結びつけていけば、いろいろな形で会員の皆様のお役に立てると思います。病診連携、診診連携が進んでいる昨今の状況にも即していると思います。

もちろん、私一人でこのネットワークを作り上げることは不可能であり、会員の皆様の協力をお願いしたいと思います。さらに、本部である香川大学医学部医学科同窓会、讃樹會会長高橋先生とも、連絡を取り合いながら、確実なものを作り上げて行きたいと思えます。又、平成19年11月17日(土)午後6時半より、東京さぬき倶楽部で第6回関東支部会を開催する予定としておりますので、その際に活発なご意見も頂きたいと思えます。お忙しいとは思いますが、万障お繰り合わせの上、参加のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、関東支部会発展のため、一所懸命頑張りますので、同窓会活動へのご理解と、微力な私への御支援、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。



第6回関東支部会開催のお知らせ

日時：

平成 19 年 11 月 17 日(土)

午後6時半より

場所： **東京さぬき倶楽部**

港区三田1丁目11-9

Tel 03-3455-5551

会費： **一万円程度**

※ 関東支部会員の該当県は以下のとおりです。

東京都・茨城県・群馬県・埼玉県・山梨県・神奈川県・静岡県・千葉県・栃木県



開催報告

卒後臨床研修説明会

医学科5年生6年生と
本院研修医・指導医との懇談会

卒後臨床研修センター専任講師
松原 修司 (平成4年卒)



平成20年度プログラムに関する懇談会を平成19年5月14日に開催いたしました。前回同様、同窓会からの資金援助により、軽食を用意することが出来たことをお礼申し上げます。おかげさまで、5年生・6年生 計85名の参加がありましたことをご報告いたします。

まず、昨年度のマッチング結果を学生さんに説明し、その後 本院の卒後臨床研修の説明、医師としてのライフプラン等、本院のプログラム説明等に関して、スライドを使用しながら詳説しました。

その後、卒後臨床研修センターOB 5名および現在研修医の11名の近況や本院での研修内容等、大学病院のメリット面についての説明がありました。学生さんは、OB・研修医の意見に真剣に耳を傾けていました。

夕食時の2時間余りの懇談会ではありましたが、同窓会よりご提供頂いた軽食・飲料水のお陰で、充実した会にすることができましたこと、厚く御礼申し上げます。

卒後臨床研修センターでは、今秋（平成19年秋、5年生対象）にも再度、説明会の実施を予定しております。今後とも、当センターの卒後臨床研修活動へのご支援を賜りますようお願いいたします。

西山 成 教授就任記念祝賀会



西山 成 先生



記念講演会「これまでの研究の概要と今後の展望」

同窓生の皆様におかれましては、益々御清祥のこととお慶び申し上げます。平成19年2月1日より、西山成先生が本学出身者として初めて母校の教授（薬理学担当）に就任されました。我々同期生はもちろん、同窓生として大変に喜ばしいことであり、平成19年3月17日（土）に高松国際ホテルにおいて、教授就任記念祝賀会を開催させて頂きました。当日は、前田肇香川大学副学長、田港朝彦医学部長、長尾省吾病院長をはじめ、多数の医学部教授や先生方、先輩・後輩、同期生など140名のご出席を頂き、初めに高橋則尋同窓会長の座長にて、西山教授の記念講演：演題“これまでの研究の概要と今後の展望”を行い、あらためて彼の業績のすばらしさ、母校の将来に対する熱意に感心させられたのです。続いて祝賀会にうつり、田港医学部長、長尾病院長から祝辞をいただき、前任教授の安部陽一先生の乾杯の音頭で祝宴が始まりました。数々の祝辞やビデオレター・祝電の披露、ピアノ演奏などがあり、またあちらこちら



平川方久先生



高橋同窓会長から教授就任祝いの記念品として置時計の贈呈



田港朝彦医学部長



西山先生ご親戚



長尾省吾病院長



岡山大学医学部 腎臓・内分泌・代謝内科 市原 雅弘先生



慶応大学大学院腎臓・内分泌内科 藤田 敏昭教授



安部陽一前任教授による乾杯



北海道医学部腎臓・高血圧・内分泌学 伊藤 真嘉教授



獨協大学医学部循環器内科 日本高血圧学会会長 松岡 博昭教授

ビデオレターで祝辞をいただきました。





金西先生



同期八期生からのお祝いの絵画



川西先生



で卒業して以来会っていなかったり、数年ぶりに会う友人や先輩・後輩との再会をよるこぶ声が聞こえ、非常に賑やかな楽しい宴となりました。

その後私たちは当然のようにダーティーディックに場所を移して学生時代のように遅くまで馬鹿騒ぎをしたのです。

最後になりましたが、後援いただきました讃樹會にお礼申し上げます、西山成教授・同窓生の先生方のますますのご活躍を祈念申し上げますとともに、簡単ですが祝賀会の報告とさせていただきます。



友廣先生



発起人会 香川大学医学部八期生

国立病院機構高松東病院

友廣 敦文

香川大学医学部周産期学婦人科学

金西 賢治

香川大学医学部脳神経外科学

川西 正彦



植松亜美母娘によるピアノ連弾



清元先生ご夫妻と



西山成先生ご一家



賑やかにダーティーディックの夜は深くて

))) 特 集 (((

学生の留学支援始まる

～学生の国際交流助成制度～



讃樹會では今年度から、準会員である香川大学医学部医学科学生を対象に、国際交流助成制度を開設しました。

国際的視野を持ち世界で活躍できる医師・医学者の育成に繋がる国際交流活動を促進し奨励することを目的とし、この制度が母校学生の活性化の一助となりますようお願いするものです。

該当される学生のみなさんは、大学関係部署又は讃樹會HPにて募集要領を確認の上、申請いただきますようお願いいたします。(※申請書は、医学部HP学務室⇒留学・国際交流のサイトからもダウンロードできます)

讃樹會 医学部医学科学生の国際交流助成募集要領 平成19年度

目的

讃樹會は、その活動の一環として、大学間交流協定および学部間交流協定に基づき海外の大学への留学が認められた医学部医学科学生会員の国際交流活動を支援します。希望者は下記の要領を熟読した上で、応募してください。

助成対象

香川大学医学部との協定校への短期留学（1週間以上、3ヶ月未満）

助成額

一人につき金4万円を限度とする。

助成件数

原則として年間20件程度とする。

応募資格

- 1) 香川大学医学部医学科学生であること。
- 2) 上記交流協定に基づく留学であること。
- 3) 本会会費納入が確認された者であること。

応募期間

2007年4月1日から2008年3月31日まで

讃樹會事務局からの通知にて支給決定を発表する。

応募手続

- 1) 所定の申請用紙※に記入すること。
- 2) 留学を証明するものの提出（例えば留学先からの受け入れ証明書、認証等）

※学生係、又は同窓会事務局にお問合せください。

応募締切

原則として帰国後1ヶ月以内、随時受付。

受給者の義務

本助成金の支給は、帰国後或いは受給後1ヶ月以内に留学報告書を讃樹會事務局に提出することを条件とする。(1200字程度。詳細は申請書参照)

報告書義務を怠った場合、或いは虚偽の記載のあった場合には、助成金の返却を求める場合もある。

尚、留学報告書に関しての著作権は本会に帰属し、同窓会会報等の本会媒体にて公開される場合、原則として本人の承諾は得ないものとする。

留 学 報 告

▶▶▶▶▶ カルガリー大学編 ▶▶▶▶▶

助成者；川田昌宏、木津裕美、福宮杏里、本条崇行

福宮 杏里

学習状況

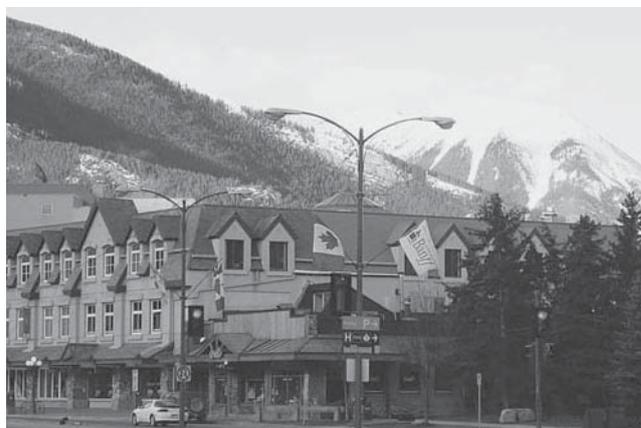
私達は「腎臓・内分泌」のコースを受講して来ました。日本と異なるのは、授業が全てスライドで行われ、それらは大学のホームページを通して全て自分のパソコンにダウンロードできるという点です。また、生徒は皆、授業中に自分のパソコンを開いて授業メモをタイプしています。この方式ですと、予習・復習がとても効率的に行えるので、日本でもぜひ取り入れて頂きたいと思います。さらに、スモールグループという、出題された症例について10人ほどで討論するクラスがあります。香川大学でも「チュートリアル」という似たような講座はありますが、中身は全く異なります。生徒はもちろん、指導・進行役の先生方も十分に予習をして討論を行い、授業では不足している知識を先生方がその場で講義して下さいます。これもまた大きな違いの一つです。



医学部生は2つのコースを並行して受けていますが、私たちは一つのコースのみの受講だったので、毎日授業は半日しかありません。授業内容自体は日本で勉強したことのあるものでしたが、予習・復習に多くの時間を費やしていました。半日授業が少ない分、楽なはずですが、余裕はありませんでした。特にスモールグループの予習は具体的治療法まで考えたりと、かなり実践的なので大変です。

生活状況

私は大学から徒歩5分のアパートの一室で、ルーム



メイトと共に暮らしていました。食事はできる限り自炊しましたが、友達と外食することも少なくありませんでした。香川での一人暮らしと違って、自分の車がないので若干不便ですが、路線バスや電車が発達しているので、どこへでも行くことができます。特に不自由に思うことは何もありませんでした。

気候は、とにかく寒かったです。コート・マフラー・手袋は必須です。4月中旬頃まで雪が降っていました。ですが、室内はとても温かいので半袖でも快適に過ごせます。

売っている飲食物の一つあたりの量がとても多いです。食べきれないことが多かったで

す。その分なのか単価は高く、結局物価は全体的にカナダの方が若干高い様に思います。例えば、マクドナルドのセットが800円位します。

アドバイス

まずは是非とも参加してほしいと思います。英語に触れることはもちろん、カナダで得た友達や数々の経験は、日本では決して得ることのできない素晴らしいものばかりでした。そして、実際にカナダに行ったら、とにかく恥ずかしがらずに色々な人に話しかけてみてください。色々な事に挑戦してみてください。



本条 崇行

今回の私たち四人の留学は、前年度までの三年生の終わりから四年生の初めにかけてという期間ではなく、五年次のポリクリ終了後の春休みと六年次のスーパーポリクリの第一クール、及びゴールデンウィークを利用した六週間を使うものでした。留学はしてみたいけれども、授業をさぼったり休んだりしたくないという私にとって、この時期に留学することは、病院見学のための時間は無くなるにせよ、まさに理想どおりといえるものでした。

今回の留学の期間中、私達はカルガリー大学医学部一年生の学生と同じ授業に参加しました。カルガリー大学は毎年香川大学を含めて四大学の学生を受け入れており、その時期によって選択できる講義内容は当然変わってきます。私達は腎・泌尿器、そして今年から加わることとなった内分泌・代謝の二つの講義に参加することとなりました。

講義はいわゆる“普通の講義”と、本校でのチュートリアルに当たる“ショートクラス”という二種類から主に成り立っ



ています。これら二つの講義はお互いに連動しており、一般講義で習った範囲は遅くとも三日以内に行われるショートクラスのトピックになります。

ショートクラスでは世間一般に言われるように、日本とは違う学生の自発性の高さに驚かされました。さらに講義から間髪入れず、ショートクラスが行われるため、必然的に授業は真剣に聞かねばならず、復習は欠かせません。さらに担当される先生方一人ひとりがそのトピックに精通しておられ、学生に主体を持たせながらも適宜補足を入れていくという作業が非常に洗練されているという印象を受けました。

一般講義についても、学生一人ひとりがノートパソコンを持ち込み、教室の無線LANを通して大学のサーバーから授業のスライドをダウンロードし、その中にノートを取るというシステムに感銘を受けました。このシステムを香川大学でも採用すれば、莫大な紙資源とコピーにかかる費用と時間の節約をすることができるわけです。また、授業中に学生が自由に手を上げ質問するという風景も日本には無いものでした。ましてやその最後に冗談を言い、教室全体が笑いに包まれるというようなことは今まで見たこともあ



りませんでした。

ショートクラスにせよ通常クラスにせよ、テキストは事前に配布され、ダウンロードも自由であるため予習も復習も自由に行えます。このことで学生の自主性を伸ばしつつ、合間を置かないショートクラスで尻を叩くという、学習効率をうまく向上させるバランスの取れたシステムである、というのが私の率直な印象です。

次にカルガリーでの生活について少し書きたいと思います。カルガリーでは(紆余曲折はありましたが)一般の家庭でホームステイすることになりました。私達日本人学生は、カルガリー大学の学生とは違って、毎日午前か午後のどちらかにしか講義がありません。そこで、私は毎日の予習復習は家族が寝静まってからすることにし、彼らが起きている間は、なるべく家族と一緒に過ごし会話をして、英語力の向上に努めることにしました。また、週末や放課後には仲間たちとカナダでしかできないことをしようと考えました。フリークライミングをしたり、スカッシュをしたり、カナディアンロッキーでスノーボードをしたりと数え上げればきりがありません。

最後に後輩の皆さんへ。留学をすることは確かにお金がかかったり、何かと準備をしたりと大変です。ましてや六年になって留学するには、国家試験の勉強に不安を感じ、物怖じをするという方もいらっしゃるかと思います。ですが、もしそれを鑑みても尚、行きたい気持ちがあるという人は、ぜひチャレンジしてみることをお勧めします。あれこれ言うつもりはありません。唯一言えることは“留学でしか得られない経験は、確かにある。”ということです。この文章を読んできた後輩の一人でも多くが、留学に興味を持ち、挑戦していただけたなら、私にとってこれ以上の幸はありません。





ニューキャッスル・アポン・タイン大学編



助成者；酒井亮太、高橋真一

酒井 亮太



同窓会の方々へ

このたびは留学資金を助成して頂きまして、真に感謝しています。助成金支給は今回初めてと言うことですが、今後の香川大学の将来を考え、是非とも継続して行って欲しいことだと私は考えています。非常に短期ですが、海外の医療を体験して、良い意味でも悪い意味でも日本の医療を見つめ直すきっかけになりました。井戸に閉じこもっているだけでは自分の程度がどのくらいか知る由もありません。井戸の外に出て初めて井戸の中が見えるものだと思います。イギリスの学生は全員、卒業前年に海外医療を経験します。日本の他の大学でも多く学生が海外を知ると言います。私は香川大学の学生が他と劣っているとは露も感じていませんが、しかし、学生に欠けているのは、外（国内だけではなく）を知る「勇気」と「機会」だと思います。今後、ますます学生に留学の機会が増えること、そのためにも是非助成金支給を継続して行って欲しいと思います。

① 学習状況について

Cellular Pathology in Laboratory Medicine

期間：4/30（月）～5/18（金）

日本でのポリクリ（臨床実習）の短さを考え、充実した研修を望んで選択したが、病理選択の留学生は初めてで担当教官も困惑したためか、放置が多く、教育



時間は極めて少なかった。教育の機会は2回ほどしかなく、後はその宿題である切片の宿題や切り出しの見学等だった。積極的に訴えたこともあったが、教官の対応は悪かった。その意味ではこの実習の選択は失敗であったが、切片について深く学ぶことができたり、イギリスの病理医の初期教育の方法を知ったり、かつ見学できたりしたのは有意義であった。

Liver Transplant / Hepato-pancreatico-biliary Surgery 期間：5/21（月）～5/25（金）

積極的に訴えたことは希望を叶えてくれるため、手洗いや外来見学では様々なものを見て、体感することができた。特に仕事内容（外科医自身のQOL、手術までのプロセス、インフォームドコンセント（IC）等）について日本との違いを多く認識したことは有意義であった。積極的に手洗いをさせて貰えて手術を身近に見られたので、手術内容の理解が深まった。日本で経験済みの症例でもあったので、違いを観察できた。外来患者とICでは日本との文化背景・社会背景の異なる様を見せ付けられた。

Colorectal Surgery 期間：5/29（火）～6/1（金）

月曜日が祝日で短い実習となってしまう、かつ外科医の休暇が多く、大きい手術は経験できなかったが、日本の大学病院では経験できない小さいが、一般的な



手術を見学できた。また、神経肛門機能検査は日本ではまだ見たことがなかったので為になった。さらに癌患者の治療方針を決定するMDTミーティング（内科医、腫瘍内科医、外科医、放射線科医、病理医、ケアナースによる癌患者の治療方針を決定する会議）は日本ではないシステムであり、大変有意義であった。また、こちらのナースの種類の多さ（4種類）仕事の多様性には驚かされた。（上級ナースは内視鏡操作など通常、医師業務となるものもできる。）

Renal medicine 期間：6/4(月)～6/8(金)

ここの内科は雰囲気非常好く、充実した実習を送ることができた。朝の回診に始まり、外来見学、昼の勉強会など様々な日本では経験できない内容の実習を終えることができた。また外来ではドクターの個別指導の時間を多く取って頂き、非常に勉強になった。ドクターも熱心に教育指導して下さる先生方が多く、色々と質問をするとしっかり返答が返ってきて、嬉しかった。入院患者は典型的な症例を始め、複雑で極めて勉強になる症例が多く、また患者さんも学生に極めて協力的で大変良い経験となった。腎臓以外の病気についても理解が深まった。外来での患者さんとドクターのやり取りでは日英の違いを含め、文化の違いを強く肌で感じることでできた週であった。

② 生活状況について

主に1年生が入る寮で過ごしたが、食事や部屋に不満はなく、とても良い場所だと思う。しかし、イギリス人との触れ合いは近いように見えてそもそもきっかけがないので、ここよりもホームステイや部屋の共有の方が語学の面でも良いと思う。この点は今後、変えていった方が良いと感じた。



長年、コーディネートに尽力された担当ドクターに徳田先生から表彰状が授与された。

③ 後輩へのアドバイス

実習態度に関して

過去の先輩方の報告書を見ても、実習中何をしたらいいかわからなくなったり、放置されたりすることがある。そういう時は「自分はこれがしたい」とか「先生は次、何をしますか」とか、すなわち「積極的」に話しかけて言ったほうが良い。しかし、日本人は黙るのが美徳であるためか、いつの間にか黙ってしまい、迷惑にならないよう、相手に差し支えないよう、行動してしまう節がある。なので、実習中は積極的に「手洗いたい」「問診させてくれ」「採血練習したい」「外来見学させてくれ」「手術中にこれは〇〇か？(しかし、これはドクターの注意をそらすのは患者さんの命

にかかわるので、雰囲気を読んでドクターがおしゃべりしているときとかにする)」とかいった方がいい。熱心なドクターならば色々やらせてもらえ、詳しく教えてくれて、自分にとってもこれは良い経験となっている。もしくは実習初期で慣れないときはきちんとしたカリキュラムを用意している感染症や、過去留学関係で日本との関わりがあった先生がいる科(例えば小児科)などの科に行くことをオススメする。そういった科ならばしっかりと相手をしてくれ、有意義な実習をすることができると思う。

④ その他

過去の先輩方に比べ英語力に不安があり、実習中は本当に苦労して、落ち込んだり気分が塞いだりしたこともあったが、患者さんとの触れ合い、ドクター・ナースとの会話など日本では体験できないことなど、全体を振り返ってみて、とても良い経験ができたと感じている。帰国した現在、やはり出国前と比べて人間的にも成長した感がある。卒業前の最後の時期に、最後の機会として、留学できたことを本当に感謝している。徳田先生を始め、関係の方々にはこの場をお借りしてお礼を申し上げたい。本当に有難う御座いました。

高橋 真一

1. 実習に関して

Newcastle upon Tyne大学の病院にて、Cardiology、Paediatrics、Nephrologyをそれぞれ2週間ずつ実習させていただいた。

どの科でも研修医の先生達が日本の研修医と比べて



ホグワーツ魔法学校へ行けたかな？



自立して、自分たちでどんどんプロセスを進めているように思えた。

しかしチーム医療が実施されており、効果的な治療を行う反面、その欠点として、また医師の勤務時間が9時から17時までと徹底されていることから、患者一人一人に対する責任感が薄れてしまっているような気もした。また書面や電話でのやりとりが多いことから、治療プロセスが少々遅いイメージを持ってしまった。

日本は英国よりもCTやMRIなどの画像診断を多用し、アンギオも頻繁に行っている感がある。英国では治療費は全額保証なので、医療費削減のために最低限の検査しかしないのだと言う。そのため隠れた疾患が見つからないというマイナスな面もあるが、聴診や触診、またJVPなど、ベッドサイドで簡単にできる診察が日本人よりも卓越していると感じられた。

Cardiologyでは研修医と共に回診、CCUの見学、アンギオやペースメーカー導入の見学、一般外来や専門外来の見学、GP（開業医？）相手の講演会見学、など参加した。

Paediatricsでも午前はだいたい病棟回診となるが、ここの小児科は、一般、感染症、神経と3グループに分かれており、日によってローテーションさせていただいた。また学生への講義に参加したり、外来の見学や、1日だけ小児外科の見学をした。



子供は将来のことがあり、例えば神経グループには、神経疾患というよりは外

傷による脳障害が多く、その外傷の原因もその子の家庭環境や社会環境が影響しているため、治癒後のことも常に頭に入れながら治療を進めていかなければいけなかった。

Nephrologyでは回診、各種専門外来、透析見学、生検やカテーテル挿入見学、また腎移植の見学をする機会もあった。

ランチミーティングでは、腎臓に関係することだけでなく、緩和ケアの先生を呼んで話してもらったり、また週に1度は胸部内科などの他の科の先生と共同で発表会をしており、腎臓以外の臨床を思いもかけず学ぶことができ大きな収穫となった。

結局3つとも内科での実習だったため、毎日のプロセスが似てしまった。一部外科を入れたり、また放射線科など少し毛色の違う科を希望したりしても良かったかもしれない。

2. 生活に関して

大学の学生寮の一室を与えられた。個室でサイズはちょうど良く、ベッド、デスク、本棚、洗面台などがついていた。トイレ、バス、キッチンも共同である。

朝夕食事は食堂で提供され、典型的なイギリス料理からイタリア料理やインド料理などが並んでいた。

物価の高いこの国では安い寮は貴重であり、また自炊を考えなくて良い分食事は非常に助かった。ちょうどRVIとNGHの間に位置するため、病院に通うのには至便であった。

夕食後はパソコンに向かったり、QBを中心にその科の勉強をしたりしていた。テレビ等もないために日本より集中して勉強することができた。

時々友達になった学生やドクターとパブやバーに飲みに行くこともあり、医療の話からプライベートな話まででき、非常に貴重な時間を過ごすことができた。

週末はロンドンやスコットランドまで足を伸ばすこともあった。

3. 最後に

英国の学生は4年生で大半が海外に実習に出かけていくそうです。それはほとんどがアフリカや南米や大海の孤島など、医療事情の非常に悪いところだと言うことです。そこでがむしゃらに研修をして医療の厳しさや自分自身への強さを身につけてくるそうです。

帰国してからの結果としては、今回様々なことを勉強でき、貴重な経験をしてくることはできたのですが、こういう頼れる人や物が少ない中での医療行為を行うという自信をつけてくる実習体制に大きな感銘を受けました。今後の自分がやらなければいけないことが少しわかったような気がします。

今回このような貴重な機会を与えてくださった先生方に感謝すると共に、来年以降また実習に行く後輩達には、なにかしらのインサイトを見つけてこられるように願っています。



平成19年度 研究助成金／研究奨励金 選考結果

第3回（平成19年度）香川大学医学部同窓会讃樹會研究助成者ならびに研究奨励者が決定しました。

今回、全7件の応募に対しまして、下表に記載されております14名の外部評価委員によって厳正なる評価が行われました結果、研究助成金部門 第1位：出石邦彦先生（4.24点）、研究奨励金部門 第1位：松田陽子先生（3.78点）となりました。（平均点：3.86点／5点満点）

理事会において出石邦彦先生に金百万円、松田陽子先生に金五十万円を授与することを正式に決定しました。両先生方には、心よりお喜び申し上げるとともに、益々の御研究の御発展をお祈り申し上げます。

外部評価委員の各先生方におかれましては、大変お忙しい中、無償で御協力頂きましたことを誌上からではございますが、感謝申し上げます。

【讃樹會研究助成金 外部評価委員】

| 部門 | 受賞者 | 研究題目 |
|-------|--|---|
| 研究助成金 | 出石邦彦 (平成3年卒) 香川大学医学部 附属病院消化器外科 | 自然免疫系病原体 認識分子TLR4の 臓器虚血障害認識 機構 |
| 研究奨励金 | 松田陽子 (平成10年卒) 日本医科大学 病理学講座 統御機構・腫瘍学 | Lumicanの肺癌に おける役割と治療 への応用 |

臨床科

| 氏名 | 勤務先 |
|---------|--|
| 1 伊藤 貞嘉 | 東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座 腎・高血圧・内分泌学部分野教授 |
| 2 香美 祥二 | 徳島大学医学部医学科発生発達医学講座 小児医学教授 |
| 3 岸本 武利 | 大阪市立大学大学院医学研究科泌尿器科名誉教授 |
| 4 成瀬 光栄 | 京都医療センター 内分泌代謝センター内分泌研究部内分泌研究部長 |
| 5 平川 方久 | 香川県庁健康福祉部参与 |
| 6 森田 潔 | 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科麻酔・蘇生学講座教授 |
| 7 吉栖 正生 | 広島大学大学院生医科専攻 探索医科学講座 心臓血管生理医歯薬学総合研究科教授 |

基礎科

| | |
|---------|-------------------------------------|
| 1 梶谷 文彦 | 科学技術振興機構（JST）主監／川崎医科大学名誉教授／岡山大学特命教授 |
| 2 島田 真久 | 大阪医科大学名誉教授 |
| 3 西堀 正洋 | 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科機能制御学 薬理学教授 |
| 4 藤田 守 | 中村学園大学 栄養科学部栄養科学科教授 |
| 5 三浦 克之 | 大阪市立大学大学院医学研究科薬効安全性学教授 |
| 6 森田 啓之 | 岐阜大学大学院医学研究科神経統御学講座 生理学分野教授 |
| 7 山中 伸弥 | 京都大学再生医科学研究所再生統御学研究部門 再生誘導研究分野教授 |

香川大学医学部医学科同窓会讃樹會 国外留学助成金公募のお知らせ

香川大学医学部医学科同窓会讃樹會では、本学の発展に寄与することを目的として、本学研究者の国外留学に対して以下の要領で助成いたします。

- 【対象】** 香川大学医学部医学科同窓会正会員の6ヶ月以上の国外留学
- 【助成額】** 年2回。1回を数件程度、総額500千円以内（下記締切分対象）
- 【申請方法】** 所定の申請書（HPからダウンロードするか、同窓会事務局に申請して下さい。）
- 【締め切り】** 平成19年度〈第2回〉平成19年9月末日
平成20年度〈第1回〉平成20年3月末日
- 【提出先】** 〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸1750-1
Tel&Fax／(087) 840-2291
E-mail：dousou@med.kagawa-u.ac.jp
- 【審査方法】** 学術局において書類審査を行い、理事会において採否を決定する。
- ダウンロード** 申請書は讃樹會HP上「国外留学助成金」の「応募要項」からダウンロードできます。

平成18年度第2回 国外留学助成金 選考結果

学術局における書類審査をもとに、理事会では下記の通り平成18年度第2回香川大学医学部医学科同窓会讃樹會国外留学助成金の交付を決定いたしました。

助成者 **横田恭子** (平成10年卒) Liverpool School of Tropical Medicine
 留学先機関：リバプール熱帯医学校 修士課程
 留学期間：平成18年9月～平成19年7月
 研究課題：公衆衛生学分野への応用を前提とした、細菌学、ウイルス学の知識の習得、および院内感染における疫学的手法の研究。
 助成額：216,700円



【受賞のコメント】

このたびは、国外留学助成金をいただき大変ありがとうございます。

私は2006年9月より、英国リバプールにあるリバプール熱帯医学校 Medical Microbiology修士課程で学んでいます。「熱帯医学校に進学するので…」と話すと、たいてい「熱帯医学専攻ですか？」と聞かれるのですが実は微生物学の専攻です。日本で感染症科の専門研修を受けてきたのですが、基本的な知識の不足を強く感じるようになり、学ばなければ本場で学びたいと考えて留学するに至りました。

コースの開始当初は「このコース日本人がとるのは初めてだから」という指導教官の激励と、oversea studentが4人いるとはいえ、英語に不自由なのは明らかに私のみという状況で学生生活を開始しました。私の学んでいるコースは、微生物学の臨床への応用と感染症をいかに診断、治療、制御するかということに主眼が置かれており、疫学、分子生物学、診断学などの多方面からのアプローチを学んでいます。同級生は大学を卒業したばかりの若者から、薬剤師、ベテラン細菌検査技師、国境なき医師団勤務の医師まで目的も背景も多様な人々が集まっています。このコースを通じて感染症治療における柔軟な視点、知識を身につけられればと考えています。

また、このたびの留学にご助力いただいた方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

助成者 **後藤正司** (平成11年卒) 香川大学医学部呼吸器・乳腺内分泌外科
 留学先機関：トロント大学医学部胸部外科
 留学期間：平成18年11月～平成21年3月
 研究課題：肺障害、肺移植、組織工学に関する研究
 助成額：204,200円



【受賞のコメント】

残暑の候、香川大学医学部同窓会員の諸兄におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。この度は国外留学助成金を賜り、誠にありがとうございました。

2006年11月よりトロント大学の胸部外科にて、肺移植及び再生医学の研究に従事しています。トロント大学では、附属の3病院とラボ群が非常に密接に連携し、人・モノ・金とも驚くほど潤沢で、様々な制限や掣肘のある日本とはだいぶ状況が違うなあと感じています。所属のラボには、中国、台湾、インド、ブラジル、ドイツ、イギリス、日本などからのfellowがおり、まさに多文化都市トロントの縮図となっています。

異なった環境・文化の中で、研究のみならず、様々なことを身につけていきたいと思っています。この度は本当にありがとうございました。

両先生の益々のご活躍をお祈り申し上げます

国外留学助成金研究レポート

Duke大学留学記

野間貴久（平成8年卒）

同窓会の先生方初めまして。平成8年香川医科大学医学部卒業の野間と申します。この度、同窓会からのご援助をいただき、米国ノースカロライナ州、ダーラム市にあるDuke大学メディカルセンター内科心臓部門にポスドクとして留学させていただきましたので、留学記をレポートさせていただきますと思います。

私は、卒業後、香川医科大学第二内科（現：循環器・腎臓・脳卒中内科）に入局し、心臓病学を中心に研修させていただきました。平成15年8月1日に渡米し、留学生生活をスタートさせました。ノースカロライナ州は東海岸のワシントンDCから南に車で3時間、フロリダ州オーランドから北に車で9時間のところにあります。州都はローリー市ですが、ローリー、ダーラム、チェペルヒル市と同程度の市が隣接し、トライアングルといわれています。そのトライアングルの中心にRTPと呼ばれる西海岸のシリコンバレーのような研究施設を誘致した地区があり、各種の研究機関が立ち並んで、一大研究地区になっています。日本からの留学者も多くいて、月に1度程度の割合で集まり、自分達の研究テーマを発表したり、米国内から日本人留学者を呼んでセミナーを開いたり研究者同士の交流も盛んに行われていました。

私のラボのボスはHoward A Rockmanで、彼は心肥大と心不全、特に β アドレナリン受容体を介したシグナル変化に関してメジャーな人で、 β 受容体リン酸化酵素による β 受容体のリン酸化によって β 受容体の脱感作が生じることを発見したグループの一人でした。ラボは、スタッフが2人とフェローが2-3人、私と同じようなポスドクが6-7人、テクニシャンが5人、学生が2-3人と比較的大きなラボでした。ラボ内は、medicine（主にTGやKOマウスのphysiology）、cell biology（培養細胞にtransfectionさせ、シグナルを探る）、genetics（心不全の原因遺伝子を探す）に大きく分かれていました。仕事には厳しいボスで毎週1回、1週間分の実験結果をすべて見せなくてはならず、アッセイに失敗してデータがないときには冷や冷やしてデータミーティングに望み、約3ヶ月に1回程度、ラボミーティングで1時間のプレゼンもあり、厳しく鍛えられたと思います。



私は主にmedicineのチームで日々TGマウスの心機能評価等行っていました。当初の私のメインテーマは、 β 受容体リン酸化酵素（ β ARK:GRK）及びPKAによるアゴニスト依存性 β 1受容体リン酸化抑制が心機能に与える影響を検討することでした。まず始めに、それぞれのリン酸化部位を欠如させた β 1受容体を作成し、その受容体を心筋特異的に過剰発現させたトランスジェニック（TG）マウスを作成しました。近年、TGやKOマウスがさかんに作成され、その表現型やシグナルの変化が検討されています。しかし実情はそれらの遺伝子改変マウスの作成は簡単ではなく、私も苦労しました。私は受容体をコードした遺伝子を導入した卵を作成し、B6マウスを用いてヘテロTGマウスを作り、6世代まで交配させ、安定した受容体を発現させ研究に用いました。TGマウスを1-2世代で研究に使っている論文を良く見かけますが、蛋白の発現量に個々の差が大きく実験には使えないと思います。B6マウスは一度に生まれるpupも5-6匹で時には1匹しか出来ないこともあり、TGマウス作成だけに2年近くかかりました。その間、2年間はマウス作成だけをしていたかと言うとそうではなく、スポーツによる心肥大はなぜ心不全に移行しないか？というテーマで検討を行いました。当時は一過性に心臓に負荷をかけるのが良くて、高血圧、大動脈弁狭窄症などのように慢性的に心負荷がかかるのが心不全への移行に関与するのではないかという論調があり、私は一過性に大動脈縮窄を作るモデルを作成し、スポーツ心と比較しました。結果、一過性であっても機械的な心負荷は

心機能を低下させ、同時に β 受容体機能不全、心筋内微小血管数を減少させることがわかり、心負荷の持続時間と共にその質が重要であることが示唆されました。またPI3K γ という β 受容体機能不全に重要な酵素を阻害すると機械的な心負荷であっても心機能低下を防ぐことを証明し、共著ですが論文で発表しました。

話は戻って、メインテーマであったTGマウスの研究ですが、当時、 β ARKによる β 受容体のリン酸化が不全心における β 受容体機能低下を惹起させ心機能低下の原因ではないかといわれていて、リン酸化部位を欠如した β 受容体はいわばスーパー受容体となり心機能が保持されるのではないかと仮説で実験を行いました。しかしながら、やっとできたTGマウスを解析したところ、 β ARKによる受容体のリン酸化部位を欠如させたTGマウスは、心臓へのカテコラミン暴露や圧負荷によって野生型と比較して容易に心不全が惹起されることが明らかとなり、ボスからこの研究はこれで終了と言われ、私の研究は2年にしてまったくの白紙になってしまいました。

しかしながら、 β 受容体のリン酸化抑制が心機能を改善させるとの多くの論文が発表されているにもかかわらず、なぜnegativeな結果になったのか、ボスにももう一度データを見直して研究を継続することを嘆願し自分なりに検討することにしました。その結果、 β arrestinという蛋白の結合が古典的G蛋白依存性の

シグナルではなく、G蛋白非依存性に多くのシグナルを持ち、それらが心保護的に作用することを発見することが出来ました。すなわち、不全心で増加し、活性化する β ARK1 (別名GRK 2) による受容体のリン酸化は心保護的なシグナルを活性化せず、その酵素の阻害はGRK 5や6といった他のGRKを活性化し受容体のリン酸化を起こして心保護的なシグナルを増強することが示唆されました。私の作成したマウスは、すべてのGRKによるリン酸化を阻害したため心機能を低下させてしまったと思われました。これらの結果は2005、2006年の米国心臓協会 (AHA) 年次総会でも発表させていただきました。

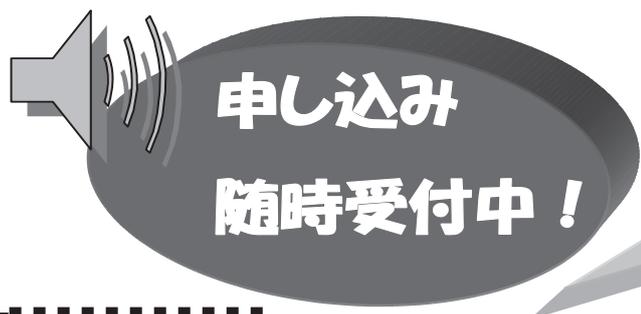
このように、私にとっての留学は研究のことだけを考えることが出来る貴重な期間だったと思います。仮説を証明するために組み立てた研究が違った結果が出たとき、おそらくすごく面白いことが隠されているのかなと感じました。平成18年7月1日に帰国し、現在日々診療で追われている生活ではありますが、この貴重な経験を生かしてこれからも研究を続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、留学の機会を与えてくださった、循環器・腎臓・脳卒中内科、河野雅和教授を始め医局員の先生方に厚く御礼を申し上げます。また、留学中にご援助いただいた同窓会の先生方にも感謝したいと思います。ありがとうございました。



私は中央後列にいます。ボスは左端

医師賠償保険のご案内 ～讃樹會「ドクター総合補償制度」～



割安で保険加入が出来ます。

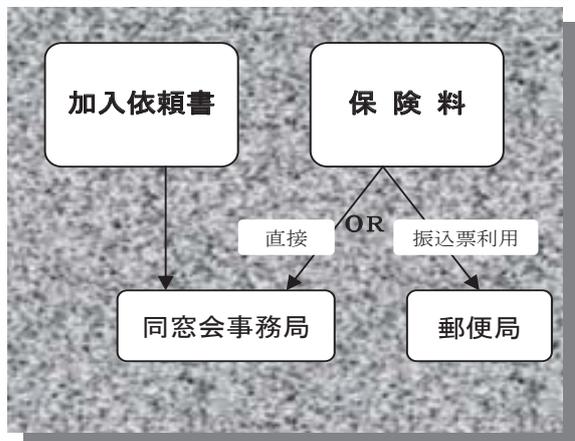
団体割引が適用され、加入者数が多いほど
保険料は割安になっていきます！
保険の切り替え時期の方はこの機会にどうぞ！

引受保険会社
東京海上日動火災保険(株)

| 加入者数 | 基本 | 50人～99人 | 100人～199人 | 200人～499人 | 500人～ |
|------|---------|---------|-----------|-----------|---------|
| Zタイプ | 50,820円 | 48,280円 | 45,740円 | 43,200円 | 40,660円 |
| Yタイプ | 66,030円 | 62,730円 | 59,430円 | 56,120円 | 52,820円 |

ドクター総合補償制度 加入 お手続き方法

- ① 『ドクター総合補償制度加入依頼書』の必要事項をご記入ください。
- ② ①の記入済の『ドクター総合補償制度加入依頼書』を香川大学医学部医学科同窓会讃樹會事務局(管理棟5階)へ提出してください。
- ③ 専用の郵便振替用紙を使用して、お近くの郵便局で保険料を振り込んでください。
または、保険料を直接同窓会事務局までお持ちください。



- ※ 「加入依頼書」及び「専用郵便振替用紙」は同窓会事務局までお申し出ください。
- ※ パンフレットをご希望の方は、同窓会事務局までお申し出ください。

- ※ いつでも中途加入できます。その場合の保険料は、前月加入時の保険料となります。
- ※ 中途加入の場合の保険期間 [中途加入時～2008年4月10日午後4時まで]

医師賠償責任保険 (年払い) 中途加入保険料

Zタイプ 対人 (一事故につき) 1億円、(保険期間中) 3億円
Yタイプ 対人 (一事故につき) 2億円、(保険期間中) 6億円

| 補償開始日 | 4月10日 | 5月10日 | 6月10日 | 7月10日 | 8月10日 | 9月10日 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| Zタイプ | 50,820 | 46,590 | 42,350 | 38,120 | 33,880 | 29,650 |
| Yタイプ | 66,030 | 60,530 | 55,030 | 49,520 | 44,020 | 38,520 |
| 補償開始日 | 10月10日 | 11月10日 | 12月10日 | 1月10日 | 2月10日 | 3月10日 |
| Zタイプ | 25,410 | 21,180 | 16,940 | 12,710 | 8,470 | 4,240 |
| Yタイプ | 33,020 | 27,510 | 22,010 | 16,510 | 11,010 | 5,500 |

- ◆ 保険契約は自動継続となりますので、住所変更等がない限りお手続きは不要です。
- ◆ 次年度以降の保険料の引落としのご案内につきましては、別途、加入者住所欄に記入いただいた住所宛に送付いたします。
- ◆ 保険の概要については、詳しくはパンフレットをお読みください。

大学内内線
2016



今すぐお問合せ下さい!

<香川大学医学部内代理事務所> 讃樹會事務局 TEL087-840-2291
E-mail dousou@med.kagawa-u.ac.jp
<取扱代理店> 株式会社第一成和事務所 フリーダイヤル 0120-100-492

理事会議事録

平成19年度第2回理事会

開催日：平成19年4月17日（火）19：00～20：20 場 所：管理棟4F 第2会議室
参加者：理事 12名（委任状23名）、執行部 3名

■■■■決議事項■■■■

1. 会則の変更 → 承認

第2章 会員 第5条

- 5 準会員(A) 香川大学医学部医学科卒業予定者（学生）とする。
- 6 準会員(B) 他大学出身の前期臨床研修医とする。
その期間は2年間限定とし、入会金、会費いずれも不要とする。
(但し、会報は配布するが、名簿は配布しない)

又、3年目以降も入会継続を希望する場合は、賛助会員の規定に従って再入会しなければならない。

※ 4月からの大学の役職呼称変更（助教授が准教授に、また助手が助教に）に伴い、会則の関連箇所も変更

2. 第5回関東支部会（平成18年11月11日開催）会計監査 → 承認

関東支部会から、理事会で監査してほしいと依頼がある。収入面は、当日の会費310,000円に同窓会からの支部会助成金99,000円を加え、409,000円。支出面は、会場の東京さぬき倶楽部の飲食費が283,550円、機材搬入の為の交通費が8,816円、当日の人件費（受付のアルバイト代）10,000円の計302,366円。収入と支出の差額である106,634円は、繰越金として「讃樹會 関東支部会」口座を開設して預金し、次の支部会開催に運用する。

3. 国外留学助成金審査 → 2名の助成決定

参加理事12名による審査の結果、横田恭子先生に216,700円、後藤正司先生に204,200円の助成が決定。

4. H18年度決算・H19年度予算 → 承認 決算予算表参照（P24）

5. その他 同窓会の法人化を目指すに当り、事業母体となる、大学のためになるような公益事業のアイデアを募集。（意見は、理事会メンバーリスト上、もしくは、執行部または事務局まで）

平成19年度第3回理事会

開催日：平成19年8月20日（月）20：00～20：40 場 所：管理棟5F 中会議室
参加者：理事 6名（委任状21名）、執行部 6名

■■■■決議事項■■■■

1) 平成19年度第3回研究助成金/奨励金助成者の決定

大森学術局長の代理として、前学術局長の西山先生から、今回の応募状況（研究助成金部門4件と研究奨励金部門3件の全7件）及び学外評価委員14名による採点結果が発表された。審議の結果、満場一致で、研究助成金部門 出石邦彦先生へ百万円、研究奨励金部門 松田陽子先生へ五十万円の助成が決定した。

尚、平成19年度第一回国外留学助成金（19年3月末締め）への応募はなかったことが報告された。

また、学外評価委員の平川先生から来年度以降辞退の申し出があり、その後任選出は学術局に一任することが承認された。

2) 会長選挙、理事選挙について

平成20年3月の任期満了に伴う会長選挙と理事選挙について、選挙規程に則り、平成20年度開催の総会における選挙実施まで、選挙管理委員会を中心に進めていくことが確認された。

3) 木蓮会との業務提携について

看護科同窓会である木蓮会は、資金面の不足と、会員情報の不足から、会の運営が窮している。香川大学同窓会連合会が立ち上がったこともあり、最も近い医学科同窓会として助力を惜まず、まずは軌道に乗せてあげることが必要であると考え。来年の3月まで短期的に業務提携を結び、対価として一ヶ月一万円で事務的作業を補助してはどうかと清元会長代行から提案があり、業務提携批准書を交わすことについて承認された。また、執行部の西山先生から、将来的に組織が自力で動いていけるよう、次の理事会では、木蓮会の役員もオブザーバーとして出席し、理事会の運営方法等、勉強してもらいたいという意見が出され、承認された。

4) 報告事項

- ①香川大学同窓会連合会が設立され、総会及び祝賀会が平成19年7月8日（日）に香川大学で開催されたことが高橋会長から報告された。
- ②学生の国際交流助成の進捗状況として、カルガリー大学4名とニューキャッスル・アボン・タイン大学2名から申請書と報告書が提出され一人当たり4万円の助成金を交付したことが清元会長代行から報告された。また、5名がブルネイ・ダルサラム大学に現在留学中であり、助成金の申請については周知してある。
- ③一期生の菅原康志先生が自治医科大学形成外科の教授に就任され、記念品として置時計を贈呈したことが高橋会長から報告された。
- ④毎月会計事務所に依頼していた事務局の現金チェック業務を、事務局長が行うことで経費節減を図る旨が、人見事務局長の代理として清元会長代行から報告され、理事会の承認を得た。監査委員会は年度末会計全般を監査する。
- ⑤ドクター総合補償の事業報告

今年4月から開始した保険事業につき、周知不足で、まだ加入者が少ない。研修中であるため保険に入りにくい研修医を補償する目的と、団体割引により加入者が増えれば保険料が割安となり加入者にもメリットがあること、手数料収入が同窓会の収益となることから、今後プロモーションを活発に行っていきたいと清元会長代行から報告された。

平成18年度収支計算書

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

事業活動収支の部

単位：円

| 科 目 | 予 算 | 決 算 |
|-------------|------------|------------|
| 1. 事業活動収入 | | |
| ①前期繰越収支差額 | 9,875,314 | 9,875,314 |
| ②会費・入金収入 | 5,500,000 | 6,255,000 |
| ③寄付金・広告収入 | 1,500,000 | 1,294,895 |
| ④雑収入 | | 736 |
| ⑤奨学金返還 | | 469,200 |
| 事業活動収入計 | 16,875,314 | 17,895,145 |
| 2. 事業活動支出 | | |
| ① 事業費支出 | | |
| 会報制作費 | 500,000 | 499,335 |
| 会員名簿編纂費 | 100,000 | 0 |
| 後援協賛事業費 | 500,000 | 469,927 |
| 支部・同期会費 | 750,000 | 750,000 |
| 学術助成金事業費 | 2,500,000 | 1,803,850 |
| 会館設立基金 | 0 | 0 |
| 学生援助基金 | 750,000 | 46,413 |
| 研修医協力費 | 500,000 | 304,065 |
| 法人化調査費 | 200,000 | 0 |
| 事業費支出小計 | 5,800,000 | 3,873,590 |
| ②管理費支出 | | |
| 事務人件費 | 3,000,000 | 2,999,050 |
| 事務局・各委員会運営費 | 1,000,000 | 117,6209 |
| 事務局設備投資費 | 300,000 | 0 |
| 通信費 | 1,000,000 | 746,249 |
| 慶弔費 | 100,000 | 214,482 |
| 雑 費 | 50,000 | 40,390 |
| 予備費 | 1,000,000 | 67,247 |
| 管理費支出小計 | 6,450,000 | 5,243,627 |
| 事業活動支出計 | 12,250,000 | 9,117,217 |
| 事業活動収支差額 | 4,625,314 | 8,777,928 |

平成19年度収支予算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

事業活動収支の部

単位：円

| 科 目 | 予 算 額 |
|-------------|------------|
| 1. 事業活動収入 | |
| ①前期繰越収支差額 | 8,777,928 |
| ②会費・入金収入 | 6,250,000 |
| ③寄付金・広告収入 | 1,500,000 |
| ④雑収入 | |
| 事業活動収入計 | 16,527,928 |
| 2. 事業活動支出 | |
| ① 事業費支出 | |
| 会報制作費 | 500,000 |
| 会員名簿編纂費 | 100,000 |
| 後援協賛事業費 | 500,000 |
| 支部・同期会費 | 750,000 |
| 学術助成金事業費 | 2,500,000 |
| 学生援助基金 | 1,000,000 |
| 研修医協力費 | 500,000 |
| 法人化調査費 | 200,000 |
| 事業費支出小計 | 6,050,000 |
| ②管理費支出 | |
| 事務人件費 | 2,000,000 |
| 事務局・各委員会運営費 | 1,000,000 |
| 事務局設備投資費 | 300,000 |
| 通信費 | 750,000 |
| 慶弔費 | 200,000 |
| 雑 費 | 50,000 |
| 予備費 | 1,000,000 |
| 管理費支出小計 | 5,300,000 |
| 事業活動支出計 | 11,350,000 |
| 事業活動収支差額 | 5,177,928 |

<H18年度決算>

収入面 会費収入は増。10年一括納入を推進し、同窓会会員のメリットを感じる同窓が増えてきたためと思える。寄付金・広告収入は減。中身の濃い薄手の冊子にという趣旨で紙面を削減した関係で広告掲載スペースが減ったため。2002年～2003年の授業料に用いるため奨学金を支給した学生会員が、現在研修を修了しており、奨学金の返還があった。

支出面 1. 事業活動支出 会報；年2回発行で予算内。名簿編纂費；名簿のネット公開の有無及び意味、更に名簿発行の有無等、議論持ち越しのまま、執行せずに予算持ち越し。支部会；予算満額執行。同期会、支部会の他に、西山教授就任祝賀会を同期会が主催。助成金；本日の理事会で国外留学助成金が決定。会館設立基金；同窓会館建設は基金を貯めるよりも、法人化後、寄附を集め事業収入とあわせて会館を建てるという方法に切り替えたほうがより現実的である。一昨年までは毎年100万円を基金に入れていたが、昨年からゼロにしている。助成事業を多くして、会員への還元に戻した方がよい。学生援助基金；付託する予定であった国際交流委員会は、香川大学医学部創立20周年記念事業でできた財源という性格上、他財源からの納入は受け取れず、75万円の予算は執行されなかった。ICLSには援助。研修医協力費；指導医の養成コースに30万円の援助を行い、指導医のモチベーションをあげることに役立ててもらった。20万円は、研修医が発表会を行い特別奨学金を出す予定だったが、昨年は10名しかおらず、業務も忙しく執行できず。法人化調査費；同窓会の法人化を目指し、事業母体として大学内の託児所開設を考えて、長年、大学に働きかけてきたが、この10月に、大学が学内に託児所を作ることになった。昨年スターバックスができ、本年6月には病院の地下が24時間営業のコンビニに変わる予定。同窓会でも長く要望してきたことが、大学側が予算をつけて、アメニティが充実してきている。託児所開設にまつわる法人化調査費が宙に浮いたかたちになっており、別の事業形態を模索中。

2. 管理支出 事務局各委員会運営費；当初見込みよりも会議が多く赤字。会議の数をなるべく減らすため、昨年度から、なるべくメーリングリストで、理事間、執行部間それぞれの会議をするよう推奨している。事務機器；突然壊れた場合用に予算をあげている。耐用年数がきているが、買い換えていないので、執行せず。通信費；メール便利用により節約できたため減。予備費；カテゴリーに分けにくいものとして予備費がある。今回は、教授就任記念講演会費用への補填。

<H19年度予算>

- ・ 事務人件費 事務局の業務時間を10時から15時までのコアタイムに短縮して、事務人件費を減らし、管理支出の減少を目指す。年間予算300万円を200万円にカット。
- ・ 昨年未執行の学生援助基金を100万円に増額。
 - ▶ ICLSは24万円の希望予算だが、補助という観点から、一回につき、2万円程度が妥当。年6回の実施で12万円とする。
 - ▶ 国際交流助成は、大学当局の指定する国際交流校への留学のみ、今年は20名位とみて、一人4万円で総額およそ80万円。対象は、カルガリー、ニューキャッスルアポタイン、ブルネイ・ダルサラム大学。帰国後一ヶ月以内に、留学の証明書類と助成申請書、報告書を提出してもらう。留学期間は最低でも一週間以上の滞在。大学当局の厳正なる審査を経ているので、当会での選考審査は行わない。来年度からは、今年一年の運用実績をもとに検討。
- ・ 研修医協力費を継続。指導医講習会に30万円。また、各学年の学生対象の研修説明会が、センター主催で年数回予定されていて、その際の軽食費の一部を支援する。以上から、今年も、同額の50万円を計上。



学内ニュースの窓

香川大学同窓会連合会設立 2007/07/08



連合会会長 榎 久雪氏(又信会会長)の挨拶

開催され、設立発起人代表の又信会（経済・法学部同窓会）会長の榎久雪氏による挨拶の後、讃樹會高橋則尋会長から設立発起人会務報告が行われました。連合会規約の制定、役員等の選任が拍手をもって承認され、香川大学同窓会連合会の設立となりました。

続いての祝賀会では、来賓の祝辞をいただいた後、各同窓会毎にテ-

香川大学の各学部同窓会からなる香川大学同窓会連合会が7月8日（日）に設立しました。

記念講演として、元香川大学長 岡市友利先生の「香川大学同窓会連合会の設立を祝う」、及び香川大学医学部長 田港朝彦先生の「生活習慣病制圧へのロードマップ」の二つの講演が香川大学研究交流棟で行われました。

次に、会場を大学会館に移して総会が



設立発起人会務報告を行う讃樹會高橋会長

ブルを囲んで、120名の参加者による和やかな歓談となりました。

同窓会相互の交流と親睦を図り、母校の教育・研究を支援する目的で産声を上げた連合会の今後の展開に、各同窓会から期待が寄せられています。



前列 左から榎氏(又信会)、宮崎氏(松楠会)、中條氏(池戸会) 濱本名誉会長、渡辺氏(緑晴会)、高橋会長、丹生氏(木蓮会)



連合会各同窓会の概要

| | | |
|----------------|---------------------|---------|
| 木蓮会 もくれんかい | 医学部看護学科 会長 丹生香里 | 521名 |
| 緑晴会 りょくせいかい | 工学部 会長 渡辺優治 | 1,400名 |
| 讃樹會 さんじゅかい | 医学部医学科 会長 高橋則尋 | 2,770名 |
| 池戸会 いけのべかい | 農学部 会長 中條利明 | 12,000名 |
| 松楠会 しょうなんかい | 教育学部 会長 宮崎正夫 | 23,150名 |
| 又信会 ゆうしんかい | 経済学部、法学部 会長 榎 久雪 | 27,200名 |
| 計 | | 67,041名 |

☆☆☆☆☆ mini news ☆☆☆

香川大学附属病院地下売店が、24時間営業のコンビニ「オアシスプラザ」となつてOPEN!

2007/07/12

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

2007/03/23

22期生卒業式

香川大学幸町キャンパスにおいて、平成18年度卒業式及び修了式が執り行われ、学部生約1300名が卒業しました。医学部では医学科と看護科の合計158名の総代として浅尾優さんが演壇に上がり、学長から学位記を授与されました。

式終了後は、医学部後援会主催の祝賀会会場である高松国際ホテルに移動



後輩に祝辞を述べる高橋会長



Outstanding Teacher of the Year



記念すべき第一回目の受賞は村主先生でした。



一井学長から学位記を受ける医学部総代 浅尾 優さん



し、その後医学部キャンパスまでもどりました。送迎バスが着くとともに、待ち構えていた後輩たちの歓声が響き、そこここで先輩を囲む輪が何重にもできました。

最後に、リーガホテルで開催された謝恩会が6年間の学生生活の締め括りとなりました。今年初めて行われた“Outstanding Teacher of the Year”には村主節雄先生が圧倒的人気で選ばれ、表彰式が行われました。また、高橋同窓会長からは、先輩としての祝福と激励の言葉に添えて、例年通り記念品のネームペンが卒業生全員に贈られました。





電話詐欺に注意

電・話・実・例

- 「〇〇大学附属病院で研修医をしている〇〇です。同級生ですが、連絡をとりたい」
- 「〇〇病院の△△です。今度、同級生の□□と結婚するので連絡をとりたい」
- 「宅急便の者ですが、〇〇医師会から荷物を預かっています。ご本人にしか渡せないので、連絡先を教えてください」
- 「〇〇病院の□□です。名簿の作成資料締切が迫っているが、集まらない。同窓生の知っている情報があれば教えてください」
- 「同窓会役員の□□です。名簿の作成締切が迫っているが、返事がなくて困っている。教えてください」
- 「今度、同窓会を行いますので、連絡先を教えてください」
- 「讃樹會（さんじゅかい）の〇〇です。名簿作成のために、勤務先を教えてください」
- 「香川大学教務の〇〇です。送ってこられた書類に不備があり、至急連絡をとりたい」と古い勤務先に電話して、新勤務先を聞き出す
.....他さまざま

対策「すぐに教えない、勝手に教えない」

見ず知らずの方から会員本人もしくは他の同窓生の連絡先について問合せがありましたら「すぐに教えない

い、勝手に教えない」を徹底してください。直答しないで、電話をかけてきた相手の名前と連絡先を確認・メモし、直接本人から電話をかけなおす等の対応をしていただくようお願い申し上げます。

「同窓会」「同窓会役員」を騙って情報の問い合わせがありました場合も、同様に対処いただき、ご面倒でもまずは大学経由又は直通で同窓会事務局まで掛け直して確認いただきますようお願いいたします。

不審な電話については、事務局までご連絡下さい

讃樹會 会費について

年会費：5000円

◆10年以上の一括納入は2割引の特典あり

年会費 $\{5000円 \times (10+X) 年\} \times 0.8$

納入忘れや毎年の納入の煩わしさもありませんので、是非推奨します。

- ◆ 納入いただきます会費は、遡って平成10年分から充当されます。卒業年から平成9年までの期間につきましては不問とすることが、平成10年の総会で決議しています。

◆会費20年分で終生会員に（会費納入終了）

『終生会員』制度とは、「年会費を20年分に相当する額を納入することをもって終生会員とする」もので、その後の会費の納入は不要となります。

訃 報

今枝彬郎先生（名誉会員） 2007年6月20日逝去
謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

病棟だより

香川大学医学部附属病院

東病棟2階および総合周産期母子医療センター新生児部

小児科

教授 伊藤 進

一地域に役立つ

小児医療をめざして一

香川大学医学部小児科は、香川県全体の小児医療を見据えながらその一員として貢献できるように努力しています。まず、世界的な小児医療を比較するものとして乳児死亡率が挙げられていることをご存知と思います。その約半分を占める新生児死亡率を減少させ

ることは重要です。香川県には、2つの総合周産期母子医療センターおよびそれに匹敵する周産期センターが一つあり、各々が地域分担をして新生児死亡率を減少させるために日夜努力をしています(図1)。

香川大学医学部

附属病院総合周産期母子医療センター新生児部は、母体搬送を主体とした新生児医療において地域貢献し、その教育を行っていくことで新生児医療を担う多くの人材を育成しています。また、新生児の蘇生や治療などが実習できる人形(ライアン君)も備え付けられ(図2)、医療関係者の教育に役立つようになっています。

次に香川県の小児医療は5つの医療圏に分けられており、それぞれの圏域において日常勤務と時間外勤務に分けて対応しています。現在、時間外診療を行っている施設で24時間対応している施設は、当院を含めて3施設、一部対応施設(おおよそ19:00~23:00)

は3施設となっています(図3)。一部対応施設では、共同利用型の形態をとり、当院派遣の医師、その他の病院の勤務医および開業医で対応しています。県人口の半分を占める高松市では、深夜の小児救急輪番制もとっており、高松市内ではない当院もその輪番制に入っています。このように、東病棟2階の病棟のみならず香川県の小児医療に大いに貢献しています。

そして、当院の小児病棟においては無菌室を完備し、慢性疾患、特に血液や固形の悪性腫瘍の治療を行っています。当院の香川県の小児慢性特定疾患の取り扱い件数は、平成18年度は香川小児病院について2番目でした。また、急性疾患を扱う件数も多く、DPCにおいて非常に短い在院日数を維持しています。

新生児医療および小児医療に興味をお持ちの方はぜひ見学にきてください。

しかし現状では少子化のあおりを受けて小児病棟の維持は非常に困難になってきております。我々香川大学小児科医は、健全な母子相互作用が確立するように努力するとともに、患者様にこの病院を選んでよかったとだけいっていただけるように努力致しますので、讚樹会員の皆様のご援助・ご協力をお願い申し上げます。

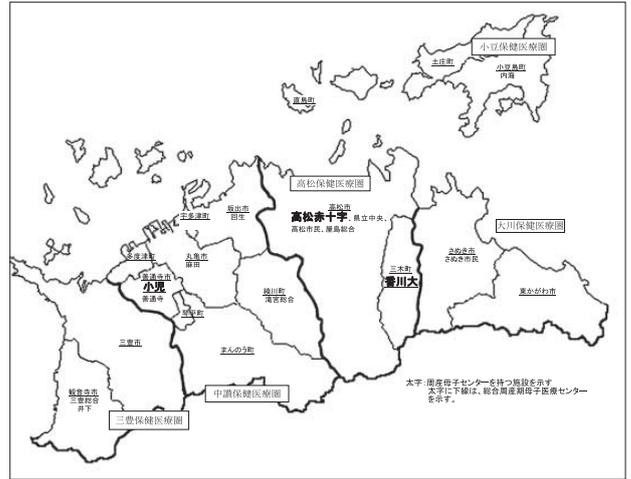


図1. 香川県の主な産科施設と周産母子センター(平成19年6月4日)



図2. ライアンと小児科医

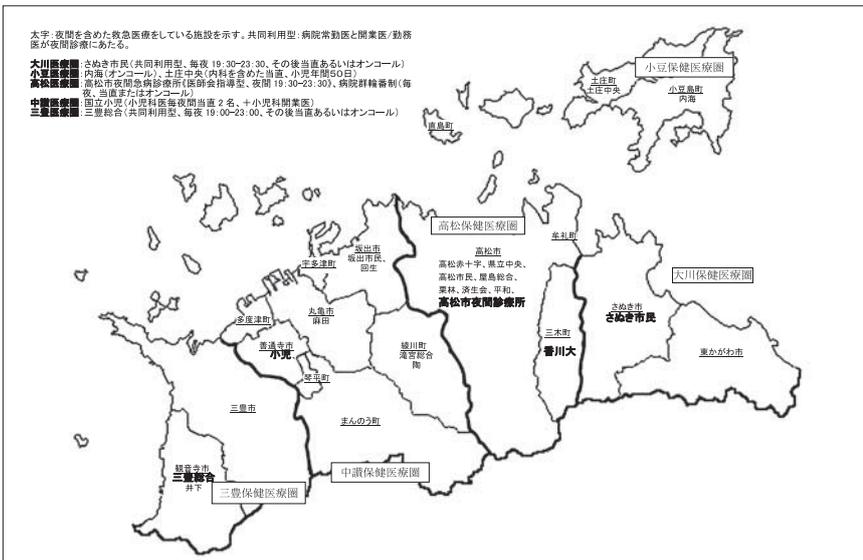


図3. 香川県の小児の入院施設のある病院と小児救急体制(平成19年7月4日作成)